



シリーズ・2018年末手当のたたかい⑥

第1回交渉を行いました!



私たち東日本ユニオンは、11月1日に「本部申9号 2018年度年末手当に関する申し入れ」の第1回目となる団体交渉を行いました。

私たちは、「基準内賃金の3.6ヶ月分」を柱とした要求を満額勝ち取るために、会社に対して要求の趣旨を強く訴えました。交渉の要旨をお知らせします。

第2四半期決算では、経営側の業績目標・業績予想を上回る収入と利益を確保!

- 10月29日に発表された「第2四半期決算」では、単体においては営業収益が1兆632億円と対前年比100.7%とし、第2四半期決算として過去最高を記録した。
- 4月に公表した累積期間の業績予想を超える利益を上げていることをしっかりと見る必要がある。
- 経営側の業績目標・業績予想を上回る収入と利益を上げた結果に、費用の増加を収益で相殺しようとしたJR労働者の並々ならぬ努力が読み取れる。
- 定期外収入を対前年+40億円とし、特に新幹線で基礎収入およびインバウンドによる増収幅を大きく伸ばし続けている。また、8月11日には新幹線の一日のご利用を過去最高にした。

あらゆる部門、分野で働く多くのJR労働者の奮闘と努力の積み重ねの結果!

- 乗務員や輸送部門のJR労働者は日々の安全・安定輸送を担いつつ、異常時にはさらなる緊張の度合いが高まる中であっても、安全を第一に安定的な輸送の確保やお客さま対応に一丸となって努力している。
- 鉄道車両の検修部門や製作部門で働くJR労働者も、常に安全な状態で運行し得る車両の維持、製作に努めるとともに、異常時における列車運用の変更や車両故障時の早期復旧対応、車両製作の工期変更などに際しても、万全の体制で臨めるように日頃より努力と研究を重ねている。
- 設備部門のJR労働者は災害時の早期復旧対応だけにとどまらず、雨、風、雪などの気象条件や昼夜を問わず点検を実施し、まさにグループ会社、協力会社と一体となって安全・安定、そして安心できる鉄道輸送をつくりだしている。
- 事務や管理、非現業部門で働くJR労働者は、現場で安心して仕事ができるよう日々バックアップをしつつ、異常時や災害時には自ら各現場などに駆けつけ、安全を第一に安定的な輸送の確保やお客さま対応を行うなど、部門や職責などの垣根を越えて努力している。
- そのような鉄道という特殊な環境下において、健康で働けるのも医療部門のJR労働者によって支えられていることに他ならない。

オールJR労働者の日々の努力に対する成果配分を確実に実感できる回答を!